

からっかせ



'70. 7. 12 PM 6:00 文化センター

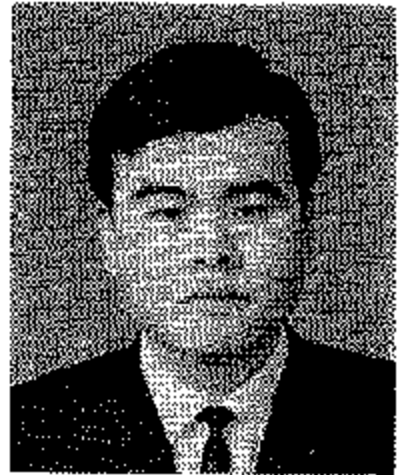
主 催 掛川良い文化をすすめる会

協 賛 地区労・民主団体・城東青年団

あいさつ

掛川よい文化をすすめる会

永野 幸雄



今テレビ映画等わたくし達の生活を反映した文化というものは、まず／＼影をひそめ、エロ、グロ退廃化の度を深め、70年代に入り反動的、軍国主義的文化が増長されて来ています。

今回、私達が迎える「劇団から『風』は16年間そのような文化と対決し「働くものが創る働くもの演劇」という事で努力して来た劇団です。

従来この地域においては、このような文化ととりくみが弱く、し

たがって地域住民も接する機会が少いという状態でありました。

特にいままでその都度、実行委員会を組織してとりくみが持続的でないという従来からの反省点にたがって、今回は地域の文化五団体が中心となり、この公演を成功させるためとりくんだ事は、非常に意義深いものがあると思います。

今回の公演を通じ今后、地域における民主勢力統一の力にしてゆき、公演成功のため奮闘していきましよう。

公演の意義

みなさん、すでに御承知のように、テレビの普及率、新聞、本、等の出版量など日本は世界でも有数のマスコミ大国となっていています。そして昨今は情報革命時代と言われて、コンピューターを中心とした大量情報の時代に入り私達に提供されるマスコミは、より一

層、画一化されてきています。日本中どこにいても、テレビを通じて何じ番組が流されるわけです。また、木屋の店頭を飾る本は復刻本、全集物、エロ雑誌で埋められています。文学に於ても、性の解放ということ、社会通念、モラルのわくを取り去った小説がもて

はやされています。ここ掛川に於ても例外にもれず、今、述べたような現実だと思えます。私達はこのような内容をもつ経済大国日本を甘んじて受け入れてよいものでしょうか、政府自民党はこのような「国民をねむりこませる」政策を進行させる一方で独占資本家の話しをよく聞く、人づくりをしつつアジアでの軍国主義大国をめざしています。私達はこのような反国民的な政府の政策に反対しつつ、国民、そして郷土掛川に老若男女すべてが楽しめる健全な民主的な文化、掛川に伝わる文化的伝統を発展させて「すべての人が生きる事に勇気を持たせてくれる」文化が育つ事をめざしています。今日は、浜松に事ム所を持つ劇団「からっ風」の公演でした。「からっ風」はすべてが昼間は働く人達であり、労働者の中で大きくなって来た劇団です。私達は今日のこの成功された力をもとに掛川に定着した息の長い文化活動を今後、続けていきたいと思えます。今日を機会に掛川で活躍される各種の文化サークル団体が民主的、自主的な文化の発展の為に結集されるよう私達は心から呼びかけます。

☆ ☆ ☆

色の変るサンゲレー
軽いナイロール

メガ本の松永

掛川市中町 電話 ② 4062

労働金庫

労働金庫は労働者の生活向上をめざし 職場の団結に役立ち ご家庭にあっては親しんでご利用いただける“働くものの銀行”です

夏！ 水に親しむ季節になりました
防水時計 各種多数取り揃えました
防水バンド

センスとサービスの店

山崎時計店

掛川市中町 TEL 2-4821

時計宝石の 沢村

掛川市役所職員組合指定
掛川市原谷駅前
Tel 原谷局 (053703) 6048

劇 団

か ら っ か ぜ と は

浜松に生れ、浜松で育った劇団です。生れて十六年になります。

私たちの劇団は職業劇団ではありません。昼間はみなさんと同じように工場や商店で農村で働いてい

ます。私たちの劇団は名前も売れていませんし、有名な俳優もいません。技術も下手です。下手だということも別に取柄にする訳ではありませんし上手くならなければいけないと思っていることも確かです。しかし、この昼間働きながら、働くものの演劇をやるということ

を大切にし、そのことを持つて劇団の一番の特色としたいと思っています。演劇の仕事だけに携る人を今後生んで行く予定ですが、劇団の基本としてはこの考えでやって行きたいと思っています。

最近のテレビなどを見ていますと、私たち働くものの生活とまったく無縁であることに気付かない訳には参りません。無縁であるばかりか強い毒を持っています。たしかに、昼間激しい労働をして帰るのだから、また深刻に考えるようなのは沢山だという考えも一理あるかも知れません。しかし、現在のテレビから生きて行く勇気を与えられるものに出会うことがあ

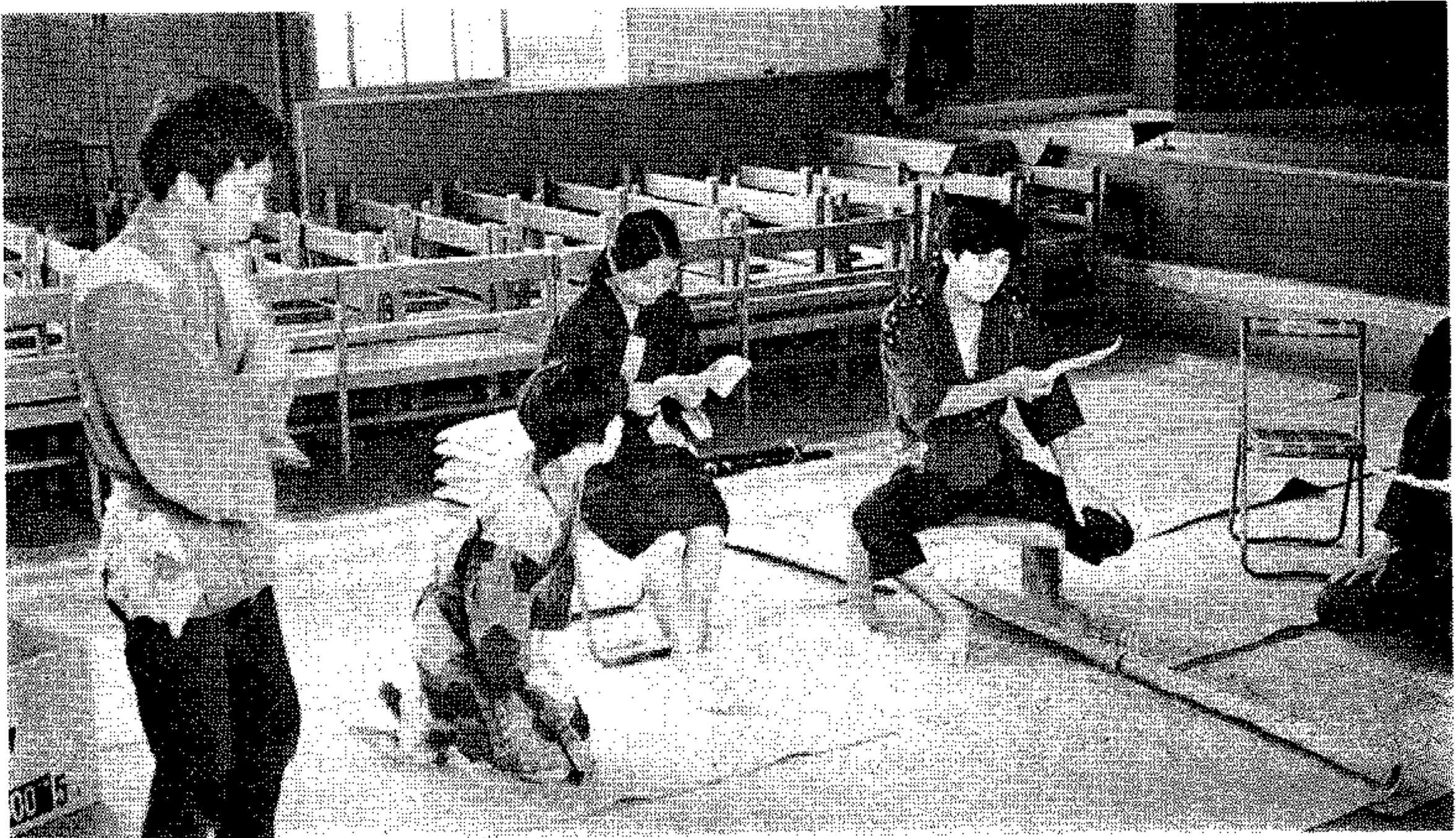
りませんか。むしろ、その場のスト・レスの解消剤か、麻醉剤でしかないのではないのでしょうか。すると、先程述べた一理あるというところ、結局は体制に都合のいい考えになっているといわざるを得ません。

私たちは、自分たちの生活と現実をみつめるところから演劇を生み出して行きたいと思えます。そのためには、自身働き、また多くの働くものの生活を知らなければなりません。私たちの創造のつきることない源泉は、働く観客なのです。

劇団からっかぜは、こういう強い主張を持った劇団です。だから、ある人たちに言わせれば片よっている劇団だと言うことになるのでしよう。しかし、働くものを甘くみたがために、エロ・グロ・ナンセンスの映画産業は今日の状態に陥りました。決してテレビが生れたという影響だけではないと思えます。テレビも、今の状態を続けるなら、やがて同じ運命を辿るものと思えます。私たちは、どんなに片よっていると言われようが、この考えは真すぐに買きたいと思えます。

どうか、みなさんの批判と援助によって支えて下さい。

☆ ☆ ☆



人を食った話

宮河 本 研 作
河 原 民 史 演出

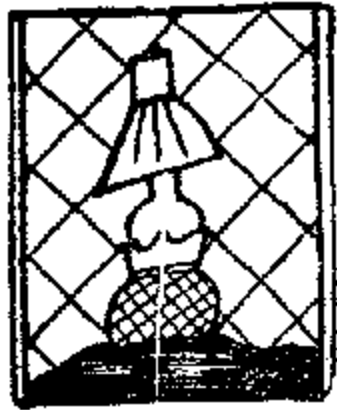
「王様ははだか」

— 演出のことば — 河 原 民 史

とにかくカネ婆さんは痛快です。法律用語をタテにヨコに駆使して、何とか犯人に仕立ようとす
る検事を、カネ婆さんは寄せつけ
ないばかりか逆に食ってしまいま
す。しかしそれは別に、はじめか
ら検事——権力を食ってやろうと
意識してやった訳ではなく、ただ
ただ本当のことを、真正直にカネ
婆さんは言ったままでです。見てい
るものにはそれが痛快この上ない
のです。

こつていると思うのです。仕方が
ない、という言葉が流行る当節
は、まったくそのあらわれに他な
りません。

カネ婆さんは、ではそういうあ
きらめ根生を克服する見本たり得
る人間かといえはそうはいえませ
ん。ただ、このカネ婆さんの言動
から生じる笑いをよく噛み締めて
みるなら、権力とは実に他愛もな
い虚像だということが分るでしょ
う。しかし、だから権力は虚像で
あることを知られるのを恐れて、
あの手この手を使って、どうしよ
うもない大きな壁に仕立て上げま
す。王様は、本当ははだかなので
す。仕方がない、とあきらめる前
に、日頃これはおかしい、と思っ
ていることをどしどし主張しまし
よう。そして、その主張の渦を広
げましょう。そのために、自分の
中にある権力の虚像を追いはいら
しましょう。



ボロの歌

北 彰 介 作
石川ひさし 演出
第五期 生・出演

演出のことば 石川ひさし

この劇は、江戸天明年間に起つた飢饉に題材をとっています。近年の明治維新研究の成果によれば、宝暦、明和、天明年間が、徳川支配の土台がゆれ、全般的な政治的・社会的矛盾が波及し、明治維新へのコースを決定的にした時代だといわれています。この頃を

ない、といわれますが、丸いばかりでは身ぐるみ剥れてしまうので

年表でみますと飢饉があいついで起つていますが、よく調べてみますと決して天災という一語で片づけられないものがあります。この時代になって来ますと、どの藩もその財政は苦しく、家臣の俸禄を削減したり、塚税したり、借金したりで、台風や冷害に備える余裕を講は持ち得ませんでした。そして、そのしわよせを農民におしつけて一方でした。まったくいいほど、この頃の飢饉は人災だったのです。徳川支配の「農民は生かさず殺さず」政策は、この時代に来て殺す状態に来てしまったのです。当然のように農民は一揆を起します。百姓は丸くて角が

私たちは、この公演の稽古の過程で、天明年間に起つたこの飢饉が決して遠い昔のことではないということを知りました。出稼ぎ、一家離村、土地を離れくわを捨て賃労働者になる運命を背負わされている農民、物価高と公害・重税に苦しんでいる労働者、これらは決して農民や労働者の行いが悪く怠けていてなった訳ではないのです。高度成長率世界一の日本です。むしろ、大変な頑張り屋の農民・労働者です。

私たちは、江戸天明の農民の心意気を受継ぎ、私たちに重くのしかかっているこの現実を打開しようではありませんか。それが世の中を進歩させる力だと思えます。良い政治は、良い暮らしを生むものです。良い暮らしを望むのに、その反対に／＼に行く政治は悪い政治です。進歩の行動を起しましょう。

人物紹介

仲間のふえたよろこび

井上 多郎

一日中歩いて、売れた券がたった二枚というときもあった。ひとり、五十枚なんて、責任をもたないで、せめて十枚くらい仲間をふやしたら赤字にならない公演ができないものかなあ——、こんななやみはつい数年



前までの公演のたびに心のすみどこかにこびりついてた。それが実行委員会がつけられるようになり、それぞれの個人、団

体が責任をもった活動をおこなうようになってからは、こんななやみは、ふっとんでしまった。こういうのがサークルであり、良い文化を守っていかうとする統一行動だということが、古い頭のわたしたちにもわかりかけてきたぜ。若い人たちのエネルギーって、たいしたもんだぜ。昔からの経験だけの文化活動

ななかでは、もうおいてかれてしまっ。「かつての活動家」なんていわれんように、若い人たちと、もっひとふんばりしなくちゃ。

城東でからっ風を進める中で

城東青年団 鈴木延男



昔の人は、歴史を作る

のは青年だ」と言いました。私達も例外にもれず、昨年十二月に文化五団体を青年達の力で発

足させ昭和四十四年の歴史に新しい足跡をつけました。その時に私は掛川、小笠地域は教育文化の谷間である事を知りました。

私達の住む城東村は、掛川よりもっとひどい文化の谷間である事を改ためて痛感しました。今私達のしなればならない事は何だろうと仲間達と話し合

あなたにとって文化とは何か

■なぜ文化運動をやるか■ 鈴木八重子

掛川で文化運動をやるうと決心して一年余、このような問いかけを、何度、自分自身にして来ただろう。それを今、二百字で言えと言う……。理論抜きに言えば、私の文化的要求である。文学を通じ

のだ、どんな暗いことがうたわれていようとそこには明るい未来がある。しかし、文化運動は決して楽ではない。人間の一番根本の塊に触れるものだから、そこに集まって来るひとり一人が、その文化により何を感じ考えるか……その答は性急には出ない。だけど、多くの人は、その現象を見る。そして評価する。そのたびに、私は、自分の求めていくものはこれだと涙を流して読みふけた「ゆきのした」を思う。文化不毛の地と言われた福井県に何下という読書をもつその呼びかけ文を……

「文化運動が、せっかちで、ひとりの十歩前進よりも皆の一步前進をはかることをさけるような、また自分の主張を認めないものはすべて対立してしまうような、しかも、根本的に変化させていく将来への展望を失なって目先の事にいつもおちこむような状態で、どうして工夫と知恵にあふれ感情豊かな文化が創造されるか……」

った中で、うすれて行く郷土文化の保存だと言う事に達しました。では自分達にできる文化運動の第一段階はこの「からっ風」の掛川公演に結びつくのではなにかという事で青年団、青年学級の仲間呼びかけて来た中でいろいろの問題もありました。が、それらの問題を一つづつ解決していく事によって、本当の文化運動が出来る事を信じ、これからも掛川・小笠地域の文化の発展に貢献して行きたいと思



婦人服専門店

女性のお城

ひまわり

掛川市中町 TEL 2-2950 夜間2-5825

ハイセンスな総合寝具店

ふとんのヤマキ

掛川市西町 電 (2) 5300

文化五団体紹介

いくり

去年の6月ごろ、いろんな人が集まって、掛川にも文章、俳句、短歌などの交換する雑誌はあるけれど素人が、僕く人達がのびのびやれる本があってもいいのではな
いか、こうして『いくり』1号が
できあがりしました。掛川によい文
化を育ててみたいこれがいくりの
希望です。

書く人がいなくなったらつぶれるのが『いくり』まがりなりにも3号まで発行しているんだから、みんなのエネルギーはすたれてい

ない。書いてて感じるのは、本になつて人目にふれるかと思うと、てれくささと恥づかしさが抜けな
い。でもしょうがない、今の僕に
できることといたたら、自分が見
たこと、おつかったことこれだけ
しか書けない。文学がどうのこう
の、いかにうまく書くか、こんな
こと考えたらとてもじゃないがや
れない。

『いくり』って自分を素直にみつめる

『いくり』って他人から励まされる

『いくり』ってみんなの和があつてできる



労音



労音って何？ 労音々音楽……でもこれからはそうでなくなりま
すよ。

労音は働くみんなの唯一の音楽鑑賞団体です。『よい音楽を安く聞
きたい』という願いで、私達働く
者が自主的にサークルをつくり、

会員一人一人の手によって音楽会を企画・運営・鑑賞しています。

クラシック・ポピラー・歌謡曲・ホークソング・民謡・ミュージカルとは幅広く、一流又は無名の出演者が本当に意欲を燃して出演しますから、テレビはもちろん普通の音楽会ではとうてい期待できない充実した内容と親しみをもっています。月に最低一回は例会（音楽会）に参加するほか、自分達がやりたいと思うことが実現出きます。会員による歌のつどい、フォークダンス、ハイキング、キャンプ、スケートに参加出来ます。

だれでもすぐ入会できます。

知り合いの会員やサークルにどの例会に参加したいか、希望をだし入会金一〇円を納めて入会すればあなたはすぐ例会（音楽会）に参加出来ます。友達をさそって、すぐ労音に入参りましょう。



総合食料品の店

石山元平商店

第1支店 掛川市成滝 626
TEL ②-2526
本店 掛川市大平町
TEL ②2401 ②2185

若者は行くトプコンユニレックスを肩にあなたのバックの中はオリンパスペン

カメラ写真 井上写真室

塩町 TEL 2-3883

演 観 協

私達、浜松演観協は今日のように「演劇を観て、それを通じて話し合おう」という団体です。

昭和三八年に浜松で会を作った以来「アンネの日記」「欲望とい名の電車」「土」「女の一生」「五重塔」「蟹工船」など古今東西の名作、新作、名優の舞台を見て会を発展させてきました。

掛川よい映画をみる会

「映画は見たいけどさ、いいのがないじゃんか、脱いだり、ドレスをぬいたり、撃ち合いばかりでさ、つまらんよ、第一料金が高すぎるしナ」近頃こんな声をよく聞きます。ちなみに昨年の成人映画を調べてみると五五・一%と半数以上を占めています。又他のものも大部分が私達の生活とはあまりにもかけ離れた夢物語にすぎないのではないのでしょうか。このように映画が退廃化して観客が少なくなっている反面、「橋のない川」「若者たち」一、二部、「ドレイ工場」

テレビドラマを観る気安さで、それに数段、まさる素晴らしさと親密さを感じますし、名作文学から味わえた以上の感激を三時間位の舞台はもっています。

会では例会が終わってから「合評会」を常に開いています。その中ではいろんな人が舞台での感激を話し出され楽しく行なわれます。みなさんも、演観協に入会するだけで月三百円の会費を納めていけば年に六本の演劇を楽しみ、あなたの生活を豊かにし、そして未

来への勇気が与えられるでしょう。

八月は「劇団民芸」の「ああ野麦峠」の例会があります。御入会をお待ちしています。

▼表紙のことば▲

鈴木 年明



楽天的で人のいい真正直な「かね婆さん」しかも永い労働できたえ上げた、がっちりとした身体、この婆さんの前には、権力をふりかざして庶民をいじめつくす支配者の手先共が小さく見え、「かね婆さん」をおとし入れようとする法律も全く効力を失ってしまふ。このようなものを絵にしてみたいと思いました。一人では弱い庶民でも、いったん団結すれば、どんなものにも負けない強さをはっきり出来るんだという確信を「かね婆さん」の中にみい出したように思います。

掛 川



ニコニコ

うたう会

歌というと、平凡で何となく聞き流してしまふようなものなんです。ですがそんな中にもいろいろあるんです。たとえば「愛の歌」「仲間のうた」「フォークソング」等たくさんありますね、そして最近、テレビ、ラジオを通じてため息調などが、大反乱して仲間と一緒に大きな声でうたうことのできるものが減って、私たちの生活とは、かけ離れた、聞くための歌になっていっていると思います。

本来、歌のすばらしさというのは、大きな声でみんなが歌えて自分の気持を現わすことでしょう。七年前に生まれた「ニコニコ」は、たえず掛川の若者と一緒に、喜びも、悲しみもわかちあってきました。

現在、会場とかマンネリ気味ですが、今度、装いを新たに若者たちと一緒にうたいたいと思います。よろしく。

サンカラーばら

(有) 山 茂 登 電 気 店

電 話 2 - 5 6 9 3

あなたのくらしに奉仕する

技術と信用の店

(有) 石 川 電 器 店

掛川市塩町 TEL ② 5038

入場税・アピール

みなさん、映画館に入る時に入場券の半分は必ず受けとりますね。あれには何の意味があるか御存知ですか？ もちろん領収書の変わりになるのですが、もう一つあれが税務署の入場者計算の元になっているのを御存知でしょうか。

映画、音楽会、そして今日のような演劇を公演すると必ず税務署から「入場税を納めて下さい」と通告してきます。これは「入場税法」という法律に基づき、国へ納める税金です。この税金は問題が多く、国会を始めとして、近くでは浜松市議会、磐田市議会でも法律を撤廃しようと、決議しているほどでございます。

外国ではどうかと言いますと、アフリカで一国あるのみで欧米の先進国はもちろん、ラテンアメリカ、アジアに於いても類例がない税金です。逆に音楽会、演劇団、伝統芸術、青少年教育、文化行事等には資金援助しているのが現実です。しかし

残念ですが日本では新居の閑所跡のような貴重な文化遺産が野ざらしにされているほどです。

演劇、音楽会、舞踊などの文化団体行事が現在の物価高の中で主催者には安く、見る人にとっては高い入場料金となつていきます。

現在入場税は料金の10%となつていまして四四年中に国へ入った額は競馬場、オートレース場の税金も含めて一三〇億円にすぎないのです。(六・二四日国税庁発表による)

私達は本来は憲法でも保障するように、市町村に於ける健全な文化行事、公演活動が行なわれる豊かな民主的の日本を期待しています。

現在労音、演観協はこのように入場税法の不当さを訴えて全国の仲間と共に政府を相手に裁判所で闘っています。

みなさん方の協力を心からお願いいたします。

☆ ☆ ☆

期生について

落合すみ子



私達もいろんな職場から集まった働く仲間です。

まず期生について説明すると劇団には、基本方針があり、その中にこういうのがあります。「育てる」……。

からっかぜが出来たのは十七年前です。期生の平均年齢が二十一才ぐらいですからみんなが四つぐらい時からこの遠州地域の浜松に出来たのです。

しかし働く者が、真実性のあるものを創ろうとする時、単に趣味的、あるいは、サークル主義的な考えより脱却し、自分達の生活をみつめようとする姿勢がないと段々とくずれ、消滅していくのです。劇団にこの研究システムがあるのもただ技術の向上だけではなく、演劇を創り、ひろげ、育てる仲間を求め

る為です。私たちの年齢は十九才から二十四才。私たちはいろんなものを求めて入って来た。仲間を……基礎を……時間があ

るから、趣味で、誘われたから、演劇をやりたい……E

TC

劇団からは教育担当の石川さん、野田君を中心にして自主的に、実践、学習、そして浜松の児童会館で行なわれた卒業公演の中で集団のアンサンブルも高められ「ボロの歌」を一回かきりでなく、もっと、よいものを多くの仲間にも見てもらいたいという要求から全員一致して今度の移動公演となった。

いろんな人間がいます。面白い仲間です。では最後にみんなのニックネームを紹介します。

- 和一ちゃん(堤) ヤマさん(内山) 竜君、ユウさん(坪井) ルミ(富永) 公ちゃん(宮下) エッチャン(谷野)
- ガタ(宮形) たっちゃん(堀越) ワン君(犬塚) セン君(泉) かすみちゃん(松井)
- オッチ(香嶋)

それから第6期生が発足しました。ぜひあなたもどうぞ

ズバリ満足できる店

一流商品(ブランド)の責任販売

洋服のシブヤへ

掛川連雀商店街 TEL 2-5092

みなさまのファミリーデパート レナウン・資生堂チェーンストア



キ ラ ヒ

掛川市連雀 TEL(代)2-2215